

大学と地域の連携～音楽を中心にコミュニティーづくり～

Cooperation between a University and Ebetsu Area ～Creating a New Community with Music～

岡 元 真理子 千葉 圭 説 永 留 淳 也 村 井 俊 博
OKAMOTO, Mariko CHIBA, Keisetsu NAGATOME, Junya MURAI, Toshihiro

1 はじめに

地域の人々が自由に集い、学び、語り、つながる場所であった公民館は、地域づくり、人づくり等生涯学習の拠点として大きく貢献してきた。しかし、近年、施設が近代的な、そして素晴らしく建て替えられて立派なものになったが、その使用料の高額化や、業務委託管理等々の運営上の問題から、貸館的な要素が強くなり、かつてのような自由に集い、語る場所となりにくくなって来ているのが現状である。

2 「カフェご近所」の登場（平成18年1月13日活動開始）

「生涯学習」の拠点としての公民館機能は弱まってきているが、近年は、それに代わって喫茶店や一般民間広場等へ集まってくる人々が増加の傾向にある。

閉店したお店のシャッターをもう一度開けてもらい、そこへ地域の高齢者等が集まって来る場所の一つが江別市大麻の「カフェご近所」である。

「カフェ」ご近所「好評」

【江別】地域の高齢化 親睦会、交遊部は「ほっとする場所」が話題が出てくるとハウスおおあさで週一回、住民らが茶菓子やお茶の持ち込みで閉店したお店のシャッターをもう一度開けてもらい、そこへ地域の高齢者等が集まって来る場所の一つが江別市大麻の「カフェご近所」である。

毎週金曜日の午後1時の輪が広がる「カフェ」ご近所

「カフェ」ご近所「好評」

【江別】地域の高齢化 親睦会、交遊部は「ほっとする場所」が話題が出てくるとハウスおおあさで週一回、住民らが茶菓子やお茶の持ち込みで閉店したお店のシャッターをもう一度開けてもらい、そこへ地域の高齢者等が集まって来る場所の一つが江別市大麻の「カフェご近所」である。

一人になった方や認知症の家族を介持の方に楽に過ごしてほしい」と願っている。問い合わせは、安久副さん ☎0143-86-1174へ。

【北海道新聞】平成18年1月14日（土）

「…地域の子どもたちから高齢者の方々まで、気楽に立ち寄っておしゃべりを楽しんだり、お茶をいただきながら情報交換に花を咲かせたり、定期的に地域の方々を対象とするサークルや趣味活動、フリーマーケットやミニコンサートの会場として、地域の皆様のさまざまな交流や活動の拠点として、溜まり場として気楽にご利用を…」(安心あんどのたまり場「ほっとハウス おおあさ」より)と、月・金曜日の午後から開かれている。

この「カフェご近所」を会場にして、大学と地域の連携による、毎月1回の「地域コンサート」を開催し、それを通じてコミュニティーづくりを進めて行こうとするものである。

3 「地域コンサート」のねらい

- (1) 地域の人々のところをつなぐ、コミュニティーづくりをめざす。
 - ・人々が音楽を通じて地域連帯感を醸成することが地域づくりとなる。
- (2) 美しい音楽を聴くことでところ豊かになる。
 - ・美しい音楽に接し、満足感と充実感にあふれた充実した時間や仲間を持つ。
- (3) 歌うことで自己表現とストレスの解消になる。
 - ・演奏者と一緒に歌うことで、日頃のストレス解消とところの開放が図られる。
- (4) 音楽を通じ世代間交流と融和が促進される。
 - ・コンサートを通じてともに音楽を共有するなかから相互の信頼感が深められる。

4 「地域コンサート」の全体構成（プログラムの基本）

第Ⅰ部 出演団体スタンダードナンバーの演奏

- ・その演奏の団体の最も得意とする曲を演奏する。

第Ⅱ部 会場の聴衆と歌いながら進める曲を演奏

- ・懐かしい童謡・唱歌・歌曲・民謡・懐かしのメロディー等を歌う。

第Ⅲ部 「フィナーレ」で会場が一つになる曲の合唱

- ・「カフェご近所の歌」「ふるさと（文部省唱歌）」等を大合唱する。

第Ⅳ部 交流交歓会…コーヒーを飲みながら歓談

- ・出演者（学生）と聴衆（住民）との交流…和気藹々と続き、世代間交流が深められる。

5 「地域コンサート」の意義

この「地域コンサート」が持つ大きな意義は、下記の「地域コンサート」チラシご案内の文中によく現されている。

（案内チラシ文より）

近隣の人々が自由に集う「カフェご近所」では、毎月第三金曜日の15時から約1時間にわたって大学生等を演奏を中心に「地域コンサートを開いております。

ここに集まって来る人たちは、相互に交流・交歓を深め、特に「音楽を通じてこころを通わせる」中から、生き甲斐や、楽しい「時間」を共有し、地域の連帯感の醸成や活性化に奇与しております。

音楽は人々をつなぎ、疲れた心を慰め、癒し、励まし、明日への希望を語るにふさわしい力を持っていることから、この「地域コンサート」が大変有意義であり、多くの人たちに支えられて継続されている所以であります。

どうぞ、あなたのお出でを、お待ちしております。

6 「地域コンサート」における大学と地域の連携の方法

(1) 大学の教育機能の活用

- ① 大学の学生や教授等人材の協力
 - ・学生演奏者を中心にプログラム編成
 - ・教授による講演・指導・演奏 等
- ② 大学の教育研究成果（論文・教材等）の活用
 - ・曲の解釈 演奏法等
 - ・編曲 新しい曲の開発 等
- ③ 大学の教育機器や施設の活用
 - ・演奏楽器
 - ・関連楽譜教材 等

(2) 地域から大学へのアプローチ

- ① 学生の活動実践の場を提供
 - ・「地域コンサート」の開催
 - ・他の地域や施設での演奏機会を提供
- ② 豊かな人生体験の交流や交歓
 - ・演奏後の交流交歓会の実施
 - ・学生へ人生体験を語る 等
- ③ 相互の活性化の促進
 - ・学生から楽器を習いたい…
 - ・学生が地域への関心が高まる… 等



☆「地域コンサート」終了後に、演奏した学生と地域の方がたとの交流交歓が深まる。

7 実践事例…「地域コンサート」の実際を4例取り上げることとしたい。

(1) 実践事例1 サクソフォーンの演奏と地域コンサート

期日：平成19年9月28日（金）15：00～

会場：「カフェご近所」(江別市大麻東町36番地銀座商店街)

演奏：北翔大学サクソフォーン・カルテット

指導：北翔大学非常勤講師 永留淳也

演奏者：Sop水沢大地・Al猪谷理絵・Ten大川千里・Bari寺崎友季子

【プログラム】

第1部 サクソフォーン4重奏

- ・ラグタイム第一楽章（ジョプリン作曲）
- ・もみじ（岡野貞一作曲）
- ・川の流れのように（見岳章作曲）
- ・アラジン組曲（メンケン作曲）

第2部 歌声と共に

- ・「ふるさと」(文部省唱歌)
- ・「埴生の宿」(ビショップ作曲)
- ・ロンドンデリーの歌（イギリス民謡）

※アンコール…「七つの子」(本居長世作曲)

【考察】

- ・「カフェご近所」地域周辺の高齢者35名の参加を得て、このコンサートは開催された。
- ・サクソフォーン4重奏団の演奏は初めてであったので、大変新鮮な感動を与えていた。
- ・演奏ホールは狭かったが、演奏者と聴衆がきわめて近い距離であり、かえって親近感を与えていた。

- ・「埴生の宿」も「ロンドンデリーの歌」も、高齢者には難しい曲であったが参加者はサクソフォーンにあわせて良く歌っていた。
- ・サクソフォーン族の楽器紹介は、大変よろこばれて、聴衆は熱心に聞き入っていた。
- ・演奏者を囲んでの交流交歓会の時間では、相互に話がはずみ、時間の経つのを忘れるくらいであった。



北翔大学サクソフォーン・カルテットの演奏

(2) 実践事例2 金管低音楽器の演奏と地域コンサート

期日：平成20年10月17日（金）15：00～

会場：「カフェご近所」(江別市大麻東町36番地銀座商店街)

演奏：北翔大学チューバ・ユーホニウム・アンサンブル

～低音金管楽器の魅力～

指導：同生涯学習システム学部芸術メディア学科准教授 千葉圭説

演奏者：Ep 1 高屋敷優一・Ep 2 坂本英美・Tu 1 桑原竜也・Tu 2 千葉圭説

【プログラム】

第1部 チューバ・ユーホニウム・アンサンブル

- ・サーウッドマウンティン (S・ブラ編曲)
- ・グリーン・スリーブス (G・バッテリー編曲)
- ・ブラジル (A・バロソ作曲)

第2部 歌声と共に

- ・「ふるさと」(文部省唱歌 岡野貞一作曲)
- ・「赤とんぼ」(山田耕筰作曲)
- ・上を向いて歩こう (中村八大作曲)

※アンコール…行進曲「軍艦」(瀬戸内籐吉作曲)

【考察】

- ・「カフェご近所」地域周辺の高齢者が約30名の参加を得て、このコンサートは期待どおり、和気あいあいのうちに進められた。
- ・チューバやユーホニウムのような低音金管楽器の演奏は初めてであったので、皆さん興味深い面持ちで聴いていた。
- ・演奏で演奏者のそれぞれのパートを分解して聴かせ、その後総合してアンサンブル

- ルを聴くことによって、音楽の構成が良くわかり、楽しさがあふれていた。
- ・第2部の「ふるさと」「赤とんぼ」そして「上を向いて歩こう」では、皆さんなじみの曲であり、参加者は演奏にあわせて良く歌っていた。
 - ・アンコールで演奏の「軍艦」は世界3大行進曲の一つ。聴衆に実際に旧海軍所属者がいて、その体験談を交えて語り合い、平和への誓いを新たにした。
 - ・演奏者を囲んでの交流交歓会の時間では、相互に話がはずみ、あっという間に時間が過ぎてしまった。実り多い交流が深められた。



北翔大学チューバユーホニウムアンサンブルの演奏

(3) 実践事例3 文化講演+ソプラノ演奏と地域コンサート

期日：平成20年11月21日（金）15：00～

会場：「カフェご近所」(江別市大麻東町36番地銀座商店街)

講演：「世界の野ばら91曲」

講師：北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科教授

岡元真理子

【プログラム】

第1部 講演：野ばら（ゲーテ作詞） 歌に出会い 人に出会い

- ・元室蘭工業大学教授 坂西八郎氏（野ばら収集家）との出会い。
- ・世界中の「野ばら」の楽譜を91曲収集し出版された。（世界初の成果・快挙）
- ・北海道で91曲の「全曲演奏コンサート」(まだ1回しか実施されていない。)

〈1〉 国立日高少年自然の家（平成2年から5年かかって演奏完了。）この当時は88曲が全曲であった。

〈2〉 北広島市の市制定を記念して（全道の合唱団大結集）

- ・平成10年から、発見された曲の作曲者の国へ行って、歌ってきている。

ドイツ・フランス・イタリア・ノールウエー・スウェーデン・デンマーク オランダ・チェコ・ポーランド等々で演奏し、コンサート後は、各国の地元での交流がなごやかに行われ、人と人とのふれあいを結んできている。

第2部 ソプラノ独唱「野ばら」47番 スタニフラフ・モニューシコ作曲

ソプラノ独唱「野ばら」68番 ビーヘルム・スヴェドム作曲

第3部 歌声と共に

- ・シューベルト作曲 ・ウエルナー作曲 (日本では特に有名な2曲)
- ・フィナーレ「ふるさと」 ・「カフェご近所の歌」全員合唱

【考察】 文化講演という内容から、地域の関心のある人たちが集まった。とても雰囲気の良い会場で、感動的なお話や演奏を聴くことができた。

- ・ゲーテの詩に世界中の作曲家からこんなにたくさん作曲された曲は他に無いことや、世界中に野ばらの異曲が91曲もあることに驚いていた。
- ・生涯学習の観点から、教育全体の在り方にも言及し、一つの詞に91種類の曲があるように、子供の育つ方向も多様である。その方向性を認め、支援しなくてはならない。
- ・「カフェご近所」ホール一杯に聴衆に溢れて、熱心にお話を聞きメモを取ったり、演奏された「野ばら」の異曲を鑑賞していた。



写真：講演中の岡元真理子教授と地域の方々

(4) 実践事例4 地域の歌づくりを通じたコンサートとコミュニティーづくり

期日：平成20年3月21日(金) 15:00～

会場：「カフェご近所」(江別市大麻東町13番地銀座商店街)

演奏：「北海道ファミリーコーラス協会」(男声合唱団)

講師：作詞者 佐久間恭子（カフェご近所主宰）

【プログラム】

第1部 男声合唱（北海道ファミリーコーラス協会）

- (1) 夕焼けこやけ（草川信作曲）……………指揮 多田金吾
 (2) 埴生の宿（ビショップ作曲）
 (3) ふるさと（岡野貞一作曲）

第2部 地域の歌の発表と演奏

「カフェご近所の歌」 発表・初演

第3部 サクソフォーン独奏……………独奏 田村幸雄

- (1) 丘を越えて（古賀政男作曲）
 (2) 影を慕いて（古賀政男作曲）
 (3) 千の風になつて（新井満作曲）

第4部 男声合唱（北海道ファミリーコーラス協会）……アコーディオン 小林 寛

- (1) ゆりかごの歌（草川 信作曲）
 (2) 七つの子（本居長居作曲）

フィナーレ 「カフェご近所の歌」……………全員合唱

明るく心を込めて
Moderato

「カフェご近所」のうた

佐久間恭子作詞
村井俊博作曲

このまらでーうまれたーカフェごきんじょう ーいっしょにー
 ーな ーいて ーいっしょにーおらう ーいまがーしあわせ ーあな
 た をまつている ーいきでーいるよ ーあしたまたあえ
 る ーせかいにーたったひとつの ーひびきあうところ ーあり
 が ーとうあり が ーとう ーほんとーうにーあり が ーとう

2008・3

☆ 大学と地域の連携から生まれた地域づくりの歌「カフェご近所の歌」楽譜

【考 察】

- ・「地域コンサート」のフィーチャーに、全員で歌う歌として毎回「ふるさと」(岡野貞一作曲)を歌ってきたが、この会のオリジナルな歌が欲しいという要望が強かった。
- ・「カフェご近所」主宰者である佐久間恭子氏が住民代表として、この願いを作詞にまとめていただいた。また、大学側の村井が作曲し完成した。
- ・「カフェご近所の歌」の発表は、作詞者の詩の朗読にはじまり、男声合唱団が歌って初演し、その後、地域の皆さんが練習した。
- ・アコーディオンとギターの伴奏に支えられ、うまくリズムにのり、楽しく歌ってくれた。



「北海道新聞」朝刊 平成20年3月22日(日)

皆さん精一杯歌い、全員の大合唱のうちに、午後4時に時間どおりに終了した。

8 地域への広報活動

こうした活動を進めるには、地域への十分な広報活動が必要である。

(1) ポスター・チラシ等によるPR

地域の人々が、このコンサートについて、十分周知して欲しいという期待から、コンサートの度にA4版の大きさのチラシを作成して、近隣に配布している。また、それを拡大したポスターを数枚を町内の要所に掲示して、コンサートへの参加を呼びかけている。

(2) テレビ等に対する「地域話題」の提供

報道番組取材へ協力している。過去にNHK総合テレビの取材を受けた内容は、高齢化への対応、地域での取り組みとして、その活動の様子が全道(一部は全国へ)放映されている。

(3) 新聞への資料提供

地域の一般的な新聞として「北海道新聞」と、ミニコミ紙「まんまる新聞」等があるが、「地域コンサート」や、その他の諸活動に対しても、資料提供を行い、案内の記事を掲載していた

だくことが、広報活動に大きな力となっている。

これらの、こうした広報活動は、単にコンサートのお知らせにとどまらず、地域人々への理解を深めるとともに、参加への意欲啓発に大きな役割を果たしてくれているのである。



第3回
「地域コンサート」
を報じる
「北海道新聞」
平成19年10月27日(土)

9 「地域コンサート」～100回をめざして

この「地域コンサート」は、毎月1回のペースで進めてきているか、諸事情で出来ない月もあることから、1年に10回と計算しても、100回までには10年間が必要になる。

そして、100回目には江別市の文化の殿堂である「えほあホール(座席数800名)」の大ホールで、1回目から100回目までの出演者全員による大コンサートを開いて、地域の人々を満席にご招待したいと、夢を語っている。

「地域づくり」は「人づくり」であることから、この「地域コンサート」が、そのささやかな活動源となりたいものと念じている。

街の片隅から生まれたこの「地域コンサート」が、今は江別市内の一部であるが、大麻・文教台地区へと発展している。この活動がコミュニティづくりと地域の活性化に少しでも役立つことができれば、やがて江別市全体へ広がって行くことと思われる。

10 残された課題

(1) コンサートを更に充実し、発展させて行くためには「ピアノ」が欲しいし、絶対必要である。無いためにピアノ独奏やバイオリン独奏等の活動へと広がらない。

(2) 大学と地域の連携を進めて来たが、大学内の音楽団体や学生との個人的なつながりを中心に進めていて、総合的な窓口が必要となってきた。組織的連携。

(3) 学生との時間調整が大変であった。特に「地域コンサート」の時間が金曜日の14:00～16:00くらいの時間でしか組めなくて、学生への負担が大きい。

(4) 会場に椅子が足りない。聴衆が少し多くなると椅子が足りないため、近隣へ借用に行くが、高齢者には椅子運びが負担である。中古のパイプ椅子あと20脚必要。

(5) どの町内にも「カフェご近所」のような、住民が自由に「集う」ことの出来る場所が必要だと思われる。各町内毎に「地域コンサート」が開かれるよう期待したい。

11 おわりに

「地域コンサート」を聴きに来てくれる人々を中心に、地域づくりや地域の活性化を進めてきているが、これを更に充実・発展させて行くためには、より多くの人々のご協力とご支援を仰がなければならない。(ネットワークづくり)

今日の社会的な変化は多様である。今や何でも行政にまかせず、市民が主体的に「生涯学習」の観点に立って、かつての社会教育主事の役割も果たして行くべき時が来たと思われる。こんなささやかな草の根活動でも、本当に地域に根づいたものに育てあげて行くことができれば、確かな「地域づくり」につながることから、その発展には大きな期待が寄せられている。

【参考文献】

- 村井俊博編：「地域コンサート」の記録〈1〉2008・12 「カフェご近所」活動資料
北海道新聞社：「北海道新聞」2007～2008刊
暮らしの新聞社：「まんまる新聞」2008刊